
閉会挨拶

堀 彰三

〈愛知大学副学長〉

皆さん、どうもお疲れ様でございました。昨日今日と、ICCSの国際シンポジウム、無事予定通り終了いたしました。なかには台風22号接近のニュースもありましたけれども、なんとか予定のすべてを完了することができました。そして今の加々美先生のお話にあったように、いくつかの問題提起が、今回できたのではないかというふうに思っております。

ところで、愛知大学について少しお話させていただきます。ご存知のように、愛知大学は創立時より、中国との非常に深い関係の中でスタートしております。創立後も、学内的には中国研究を脈々と引き継いできたということで、その成果が、具体的な形としては、現代中国学部の開設、それから今回のCOEのような形になって、社会的にも、これまでの愛知大学の中国研究についての実績といますか、伝統といますか、そういうものが認知されたのではないかと思っております。

このICCSの活動は大きく分けて二つあります。それは教育事業と研究事業です。今回のシンポジウムは、研究事業としておこなっている五つの分科会での研究成果をふまえて、こういう形で世に問うておくと、いうことで開かれたわけです。そのなかでのメインテーマというのが、これは加々美先生が常々言っておられますけれども、「現代中国学の確立」ということであります。そういったことに対して、今回のシンポジウム、若干でも一歩を進めるような形で効果があったのではないかと、貢献があったのではないかと思っております。しかしまだ、完成までにはいくつかの問題があると思います。これからも皆様方のご指導、ご協力、なにとぞよろしくお願いいたします。それから、最後になりましたが、今回、報告者、パネリスト、それからコーディネーターの皆様、本当にご苦労様でございました。ありがとうございました。

それではこれもちまして、今回のシンポジウムの閉会といたしたいと思っております。ありがとうございました。